

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
【部門区分】第 3 部門第 2 区分  
【発行日】令和 4 年 8 月 2 日(2022.8.2)

【国際公開番号】WO2020/023923  
【公表番号】特表 2021-530541(P2021-530541A)  
【公表日】令和 3 年 11 月 11 日(2021.11.11)  
【出願番号】特願 2021-503108(P2021-503108)  
【国際特許分類】

C 0 7 C 2 1 1 / 2 9 ( 2 0 0 6 . 0 1 )

10

A 6 1 P 2 5 / 0 8 ( 2 0 0 6 . 0 1 )

A 6 1 K 3 1 / 1 3 7 ( 2 0 0 6 . 0 1 )

C 0 7 C 2 1 9 / 1 4 ( 2 0 0 6 . 0 1 )

【 F I 】

C 0 7 C 2 1 1 / 2 9 C S P

A 6 1 P 2 5 / 0 8

A 6 1 K 3 1 / 1 3 7

C 0 7 C 2 1 9 / 1 4

【手続補正書】

20

【提出日】令和 4 年 7 月 25 日(2022.7.25)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

化合物と 1 以上の薬学的に許容できる賦形剤とを含む医薬組成物であって、

前記化合物は、( R ) - フェンフルラミン又はその薬学的に許容できる塩、( R ) - ノ  
ルフェンフルラミン又はその薬学的に許容できる塩、及び( R ) - ベンフルオレクス又は  
その薬学的に許容できる塩から選択され、

前記化合物は 80 % 超の鏡像体過剰率( e e )を有する医薬組成物。

【請求項 2】

前記化合物が 90 % 超の e e を有する請求項 1 に記載の医薬組成物。

【請求項 3】

前記化合物が 95 % 超の e e を有する請求項 1 に記載の医薬組成物。

【請求項 4】

前記化合物が 97 % 超の e e を有する請求項 1 に記載の医薬組成物。

【請求項 5】

前記化合物が 99 % 超の e e を有する請求項 1 に記載の医薬組成物。

40

【請求項 6】

前記化合物が 80 % ~ 99 % の e e を有する請求項 1 に記載の医薬組成物。

【請求項 7】

前記化合物が 90 % ~ 99 % の e e を有する請求項 1 に記載の医薬組成物。

【請求項 8】

前記化合物が( R ) - フェンフルラミン又はその薬学的に許容できる塩である請求項 1  
から請求項 7 のいずれか 1 項に記載の医薬組成物。

【請求項 9】

前記組成物が、30 mg 超の( R ) - フェンフルラミン又はその薬学的に許容できる塩

50

を含む請求項 8 に記載の医薬組成物。

【請求項 10】

前記組成物が、35 mg 超の (R) - フェンフルラミン又はその薬学的に許容できる塩を含む請求項 8 に記載の医薬組成物。

【請求項 11】

前記組成物が、40 mg 超の (R) - フェンフルラミン又はその薬学的に許容できる塩を含む請求項 8 に記載の医薬組成物。

【請求項 12】

前記組成物が、40 mg ~ 300 mg の (R) - フェンフルラミン又はその薬学的に許容できる塩を含む請求項 8 に記載の医薬組成物。

10

【請求項 13】

前記組成物が、40 mg ~ 150 mg の (R) - フェンフルラミン又はその薬学的に許容できる塩を含む請求項 8 に記載の医薬組成物。

【請求項 14】

前記化合物が (R) - ノルフェンフルラミン又はその薬学的に許容できる塩である請求項 1 から請求項 7 のいずれか 1 項に記載の医薬組成物。

【請求項 15】

前記化合物が (R) - ベンフルオレクス又はその薬学的に許容できる塩である請求項 1 から請求項 7 のいずれか 1 項に記載の医薬組成物。

【手続補正 2】

20

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0180

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0180】

結果。動物をランダムにビヒクル群 ( $n = 16$ ) 又は異なる用量の群 (1 用量あたり  $n = 16$ ) に割り当て、処置条件を知らない実験者によって上記 6 Hz アッセイを実施した。(rac) - フェンフルラミン及び (R) - フェンフルラミンは、20 mg / kg で動物に投与したとき、ともに、精神運動性の発作に対して保護されるマウスの百分率において同様の傾向を示した (図 1)。(rac) - フェンフルラミンによって保護された動物の百分率は 37.5 % (フィッシャーの直接確率検定によると  $p = 0.018$ ) であり、(R) - フェンフルラミンによって保護された動物の百分率は 31.3 % ( $p = 0.043$ ) であり、ビヒクルのみ (対照) によって保護された動物の百分率は 0 % であった。同様に、20 mg / kg で (rac) - ノルフェンフルラミン及び (R) - ノルフェンフルラミンを動物に投与したところ、精神運動性の発作に対する同様の保護レベルが示された (図 1)。(rac) - ノルフェンフルラミンによって保護された動物の百分率は 50 % (フィッシャーの直接確率検定によると  $p = 0.002$ ) であり、(R) - ノルフェンフルラミンによって保護された動物の百分率は 50 % ( $p = 0.002$ ) であり、ビヒクルのみ (対照) によって保護された動物の百分率は 0 % であった。

30

40